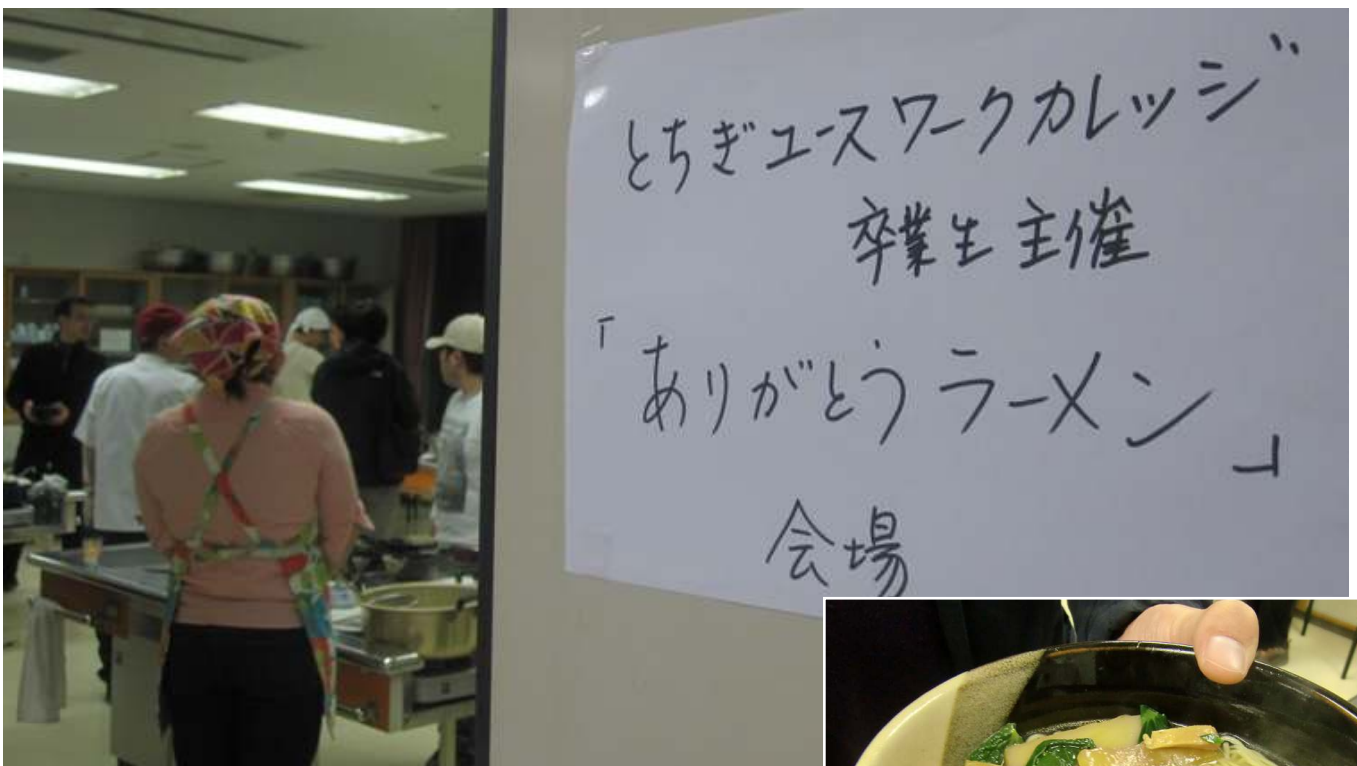


とちぎユースワークカレッジ ニュースレター Vol.11

明日の入口 昨日の出口

「とちぎユースワークカレッジ」は、全国でもあまり例がなく、栃木県では初めての通所型の若者支援事業です。一時的に社会から遠ざかった若者が、同じ悩みを抱えた仲間達と一緒に再び社会参加するための、「学びと体験の場」。

「自分を変えたい」「社会と関わりたい」若者であれば誰でもOKです。ひとりでは変えられないことも、同じ悩みを抱えているもの同士が集まり、みんなで手を繋ぎ、力をあわせて、**自分と仲間**を変えていく。そんな若者のための場所です。



目次

- 1 表紙
- 2 第5期遠足,
修了生企画イベント「ありがとうラーメン」
- 3 プログラムの活動報告(社会教養, クラス運営, 環境)
- 4 プログラムの活動報告(農業, 福祉, 地域活性)
- 5 特集 若年支援への取り組み
- 6 入学生募集中, 入学生状況
- 7 協力団体紹介, とちぎユースワークカレッジとは
- 8 これからの予定,
とちぎユースワークカレッジを応援する会 会員募集, 編集後記

2012年1月27日(金) 「ありがとうラーメン」

第5期遠足！ 2012年1月13日(金) 茨城県茨城郡 大洗水族館

今回の遠足は、大洗水族館、大洗磯前神社、めんたいパークの3か所に行きました。カレッジ始まって以来の豪華3本立ての遠足です。道中、渋滞に巻き込まれるなどのアクシデントはありましたが、とても楽しい遠足となりました。

水族館では3グループに分かれて館内を見学しました。イルカのショーとフードコートでの食事は、みんなで一緒に堪能しました。

大洗磯前神社では、途中、二荒山神社のように急な階段を降り、海へ行きました。帰りはこの階段を登らなくてはならないという事実を忘れ、海岸でささやかにはしゃいだ後、上磯の鳥居をバックに記念撮影をしました。

最後にめんたいパークに行き、ガイドさん付きの工場見学をしました。明太子とたらこの違いなどの雑学を手に入れた後で、試食やお土産を買い、工場を後にし、カレッジへの帰路に着きました。



イルカのショー見学中
この後イルカから水しぶきのプレゼントをいただきました



海岸散策をした後に、
上磯の鳥居をバック
に集合写真

左上に神様が…



昨年できたばかりの、
めんたい工場

初めて見るものばかりで、みんな真剣に見学していました

修了生企画イベント

「ありがとうラーメン」 2012年1月27日(金) 宇都宮市総合福祉センター



修了生の小林君(写真左)、落合さん(中央)

カレッジから巣立った修了生が集まる、月に一度の「交流会」。この交流会は、修了生がお互いの現状を伝えあったり、在校生を含めて支えあったりする、そのような「場」となっています。

今回は、在校時にお世話になった講師の方々へ、お礼と今の様子を知っていただこうと、修了生の小林弘典君が、宇都宮市役所近くでお店を出している「らあめん厨房どる屋」の落合さんとコラボ企画で「ありがとうラーメン」を開催しました。

「つながりながらじりじり進む」

NHKのテレビ番組で、作家の石田衣良さんが言っていた言葉です。何にでも言えることだと思いますが、支援される側も声を上げないと、支援は一時的なものに終わってしまいがちです。支援される側と支援する側、そこでできたつながりを大切に、じりじりと自分にあつた速さで進んでいく。とても大切なことだと思います。そんな想いからこの企画が立ち上がりました。

この企画が継続的なものになっていくことを願いつつ、この企画に関わったすべての方に、この場を借りてお礼申し上げます。

(修了生 小林弘典)



ゆで加減、大丈夫かな？



必修科目: 社会教養

社会教養プログラムは、社会への一步を踏み出す前に、基礎的な知識とルールを学びます。次のステップへの基礎体力づくりをします。



2012年1月16日(月)
電話をかける練習

今年初めての社会教養の時間です。1月末から学生たちは一斉にインターンに入ります。そこで、ビジネスマナーの一つ、電話のかけ方を練習しました。

誰もが携帯電話を持つ時代、だれが出るかわからない状況、電話をかけて代わってもらいなど、一見あたりまえのような電話の受け答えの経験がない学生がほとんどです。もともと話すことが苦手なうえ、電話でなれない敬語を使いながら用件をメモするとなるとすごく大変なことに感じてしまいます。

そういうわけで、電話の練習。二人一組になって電話を片手に、メモを取りながら話しました。はっきり伝える。相手の内容を確認し復唱する。緊張でしどろもどろになりながらも、何度も練習しました。この後インターン先に実際に電話をします。インターンで感じたことを聞けるのが楽しみです。

(社会教養プログラム担当: 横松)



必修科目: クラス運営

クラス運営プログラムは、カレッジ生が全員参加し、お互いの理解や関係性を深めていく時間です。集団でしかできないことを楽しみ、学生の希望なども取り入れながら、一週間最後の日を過ごします。

プブ湯沢先生による、ウクレレ教室です。今回は2回目の授業ですが、「みんな上手くなったね」と言っていただきました。

前回の「きらきら星」に加え、今回はついに「コード」が登場! 今日新たにチャレンジしたのは「Pua mana」という、ハワイアンらしい、ゆったりとした癒される曲です。みんな、プブ湯沢先生の素晴らしい演奏と歌にうっとり。その後の練習では、慣れない指使いにみんな悪戦苦闘していましたが、プブ湯沢先生の楽しいトークで緊張もほぐれ、リラックスして練習できました。

現在、月・金の放課後には全員でウクレレを練習しています。上達のためにはとにかく練習あるのみということで、今後も学生・スタッフ共にがんばっていきます!

(クラス運営プログラム担当: 清野)



2011年12月16日(金)
プブ湯沢先生のウクレレ教室



選択科目: 環境

環境プログラムは、環境教育を通して様々な考え方・生き方・働き方にふれ、前に進むためのきっかけを見つける授業です。



2011年12月13日(火)
アウトドアクッキング&修了生との交流

今日の授業は2人のカレッジ修了生に協力してもらいました。

午前中は、修了生を交えてのアウトドアクッキング。薪集め、火おこし、材料下ごしらえをした後、チキンが食べたいとリクエストがあったので、チキンを丸ごと1匹と、農業プログラムから分けてもらった野菜と一緒にダッチオーブンで焼きました。こんがり焼きあがったチキンとほくほくの野菜をワイルドに頂きました。

お腹いっぱいになったところで、午後は焚き火を囲んで修了生との交流会を行いました。今だから話せること、カレッジで学び役に立ったこと、環境プログラムで学んだこと、残りの3ヶ月でチャレンジした方がいいことなどを、修了生から現役の学生達に語り伝えてもらいました。

(環境プログラム担当: 大森)



選択科目: 農業

農業プログラムは、自分たちの手足を使い農作物を育てながら、暮らしに密接する「食」について改めて考え、学ぶ授業です。



2011年12月2日(金)
そばの収穫

朝はこの冬初?!の雪が降るほどの寒さでした。みんな来てくれるかなと少し不安もありましたが全員集合し、カレッジ畑へ行きました。

今日はそば刈り。寒さに震えながら、カマを片手に一列に並んで、よーいスタート!「収穫しては前に進む」を繰り返すこと3時間。途中、寒さでいやになりそうな気分の時もありましたが、隣で収穫している人の姿や紅葉の美しさに助けられ、収穫完了。一日で終わらないかとも思っていたのですが、みんなのがんばりで予定よりも早くそばを収穫し終えることができました!!

本日の講師、池田さんがおっしゃっていた、「次の作業が効率よく出来るように、一緒に作業する人のことも考えて」を、次回の畑では皆で実践していきましょう。

(農業プログラム担当: 吉井)



特別科目: 福祉

福祉プログラムは、人とかわり、福祉の仕事を学びながら、人が人として生きる、その原点を見つめます。今期は3か月に一回、全員参加での授業をおこないます。

新年にちなみ「お正月を楽しむ」の授業です。宇都宮市東築瀬で放課後の学童保育を運営している「カエルクラブ」で、冬休み中の子どもたちと一緒にお正月を楽しんできました。

自己紹介から大きな声で元気な子供たちに学生、スタッフとも圧倒され、午前中に開催した「カルタ大会」も、その後の「外遊び」もオリジナルルールが作られるなどいつの間にか子どもたちに遊びの主導権を握られてしまいました。そして、お昼は、子どもたちと一緒にうすときねを使った「餅つき」。ついたお餅をちぎりながら仲良く分けて食べました。

子どもの自由奔放な姿は、大人になった私たちにたくさんの気づきを与えてくれました。遊ぶときには、真剣に「楽しむ」ことは、大人になってからも大切です。



2012年1月5日(木)
子どもたちとカルタ遊び



特別科目: 地域活性

地域活性プログラムは、「こんな風だったらおもしろい」を、少しずつカタチにする授業です。今期は3か月に一回、全員参加での授業をおこないます。



2011年12月15日(木)

ロケがおこなわれた場所を探してみよう!

今回は、「映画のロケ地をめぐり、地域の魅力を再発見しよう!」がテーマです。ゲストは、栃木県フィルムコミッションの慶野さん。ビデオを使いながら、具体的にどういった活動をしているか、ロケの実態や裏話などを交え説明してくださいました。

午後は、宇都宮中心部周辺で撮影された映画を鑑賞し、実際にロケが行われた場所を探すアクティビティを行いました。映像を通してみる私たちの地域は、また違った一面をみせてくれます。視点を変えることで見えてくることもあります。

普段何気なく通る道、訪れる場所。実はそこにはたくさんの魅力が溢れています。自分が住む地域に興味を持つきっかけになってもらえたらと思います。

(地域活性プログラム担当: 古河)

若年支援への取り組み

私たちが支援をしている、若年たちの現状を伝えていきます

特集

とちぎユースワークカレッジは、15歳～39歳までの若年層の無業者を支援しています。なぜこのような支援の必要性があるのか？近年、若者の親への依存の長期化、社会への関心の希薄化など、若者の社会的自立の遅れや、いわゆるフリーターや無業、ひきこもりと呼ばれる若者の増加が社会的な問題となっています。

若年無業者は、全国で60万人(平成22年)

若年無業者が問題視され始めたのは、2000年代に入ってからのこと。90年代前半のバブル崩壊以降、日本を含めた世界的な社会情勢の変化などで年々**失業者が増加**してきました。2004年に発行された労働白書から「若年層無業者」をとらえ始め、2003年のデータとして52万人と集計しました。そして、**2005年以降**においては、「**若年無業者**」として新たに家事、通学をしていない既婚者、学生も加え、2009年**63**万人、2010年**60**万人と発表されています。

平成19年の調査では、働けるのに働かない多くの理由は、「病気や怪我などの健康上の理由」、「親の介護」などで活動が行えないものが**3割**程度を占めています。次に「知識や能力に自信がない」、「進学や資格取得に向けての勉強中」などが続き、「希望する仕事がありそうにない」、「探したが見つからなかった」なども**1割強**を占めています。



特に問題なのは、一度も職に就かない、もしくは就いたとしても**短期で離職**してしまうことです。現代社会の中では、無業期間が長く**年齢を重ねてしまうと**、働き口が少なくなり、その結果さらに人と関わる機会が少なくなり、より**働くことが困難**になるという状況に陥ることです。

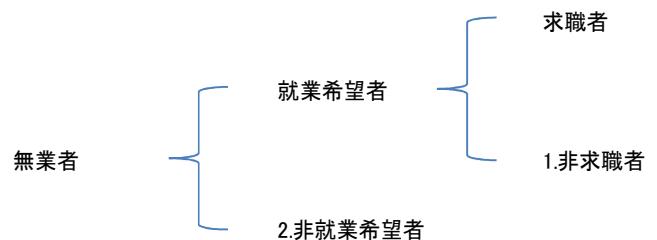
この問題は、本人や家族の問題にとどまらず、経済や社会全体への影響、高度な労働力の不足による中長期的な競争力や生産性の低下、生活基盤の欠如による所得格差の拡大、社会不安の増大、社会保障制度の担い手の不足、少子化の進行なども懸念されています。

若年無業者とは？

- そもそも**若年無業者**とは、**15歳から34歳**の個人で
- (1) 高校や大学などの学校及び予備校・専修学校などに通学しておらず、
 - (2) 配偶者のいない独身者であり、
 - (3) 普段収入を伴う仕事をしていない者

その若年無業者層を三類型に分類すると

- 「求職型」……就職希望を表明し、求職活動をしている
 - 「非求職型」…就職希望を表明しながら、求職活動はしていない
 - 「非希望型」…就職希望を表明していない
- 現代において問題なのは、「**非求職型**」「**非希望型**」です。



さらに近年、若年無業者の**高齢化**が深刻になってきています。2009年から2010年で若年無業者は、減少しているが、**35歳から39歳**までの無業者層は**増加**しています。その多くは、根本的な問題が解決されておらず年々歳を重ね、統計データから除外されています。

若年無業者の問題は、本人ひとりや家族だけで悩むことが多く、家族以外の人や他者や支援機関を頼らず、抱え込んでいることにあります。**問題を長期**にわたり抱え込んでいると、それだけ**復帰にも長い時間**がかかります。

そのためにもできるだけ初期の段階で、相談や支援機関に繋がることで無業状態の長期化を防ぐことが大切です。

入学生募集中

開校から2年半を迎えたとちぎユースワークカレッジでは、平成23年度4月からの第6期生を募集しています。

最初はみんな、「何を話したらよいか」「どう思われているのか」と不安を抱えています。しかし、とちぎユースワークカレッジでの活動で、スタッフをはじめ、**講師**や**地域**の人たちとの関わりを通じて、人との関わりを学びなおして、社会へと羽ばたいています。

問題解決のためには、ご家族だけでなく、第三者が気づき、支援をすることが必要です。このとちぎユースワークカレッジで、スタッフや仲間とともに、次の一歩を踏み出してみませんか？まずはご相談ください。

TEL：028-638-5502(担当：清野)

★募集要項

対象者：
15歳から概ね35歳

登校日：
週3日(月、水、金)

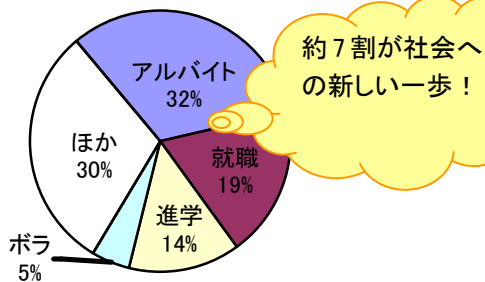
活動時間：
9：30～15：30

募集定員：
20名

詳しくはホームページへ

入学生情況

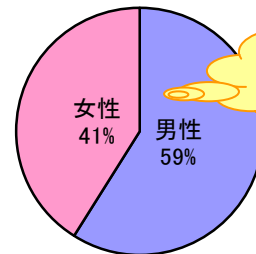
修了後



約7割が社会への新しい一歩！

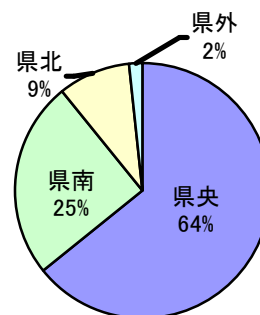
半年の支援を受け、修了したのち、約8割の学生がさらに半年間の継続在学を選択していますが、修了し、卒業した学生の約7割は、就業・アルバイト・進学・ボランティアなど、社会の次の一歩を歩みだしています。

男女比



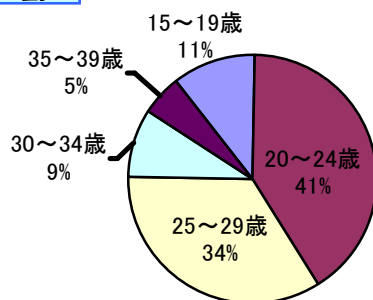
男女問わず楽しい交流

居住地



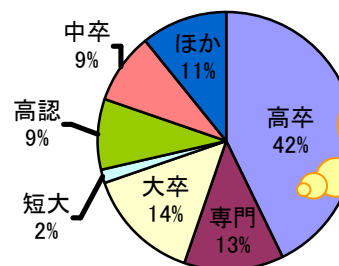
県内各地から通学しています。普段出歩くことが少なかった若者も、カレッジに自ら様々な交通手段で通学することで、社会経験が育まれます。

年齢



学生の平均年齢は、每期25歳前後で、幅広い年齢層の若者が入学しています。この中で年齢が異なる者同士が仲間となり、個々人が抱えている悩みごとを助けあいながら交流を深めています。

学歴



入学に学歴は不問です

中学卒業から大学卒業まで様々な学歴を持った学生が入学しています。人と関わるのが苦手という同じ悩みを抱えているので、学歴関係なく支えあっています。

協力団体紹介

このコーナーでは毎回、カレッジと一緒に若者を支えている団体、企業様等を紹介しませ

とちぎ若者サポートステーション

とちぎ若者サポートステーションとは…

様々な理由で働くことが困難な若者たちのための自立就労支援機関です。自分の進むべき道が見出せない人や、仕事をしたいと思っているのに初めの一步を踏み出せない若者を対象に、官民を超えた県内の若者支援団体とのネットワークを活用しながら問題を解決し、若者の自立をサポートしています。

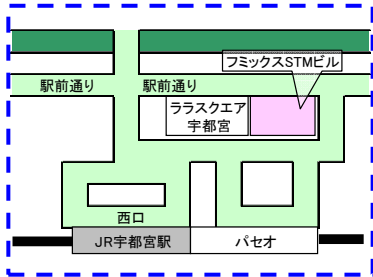
「あせらない!あわてない!あきらめない!」を合言葉に、多くの若者が自立の道歩んでいけるよう、若者一人ひとりの可能性を信じながら個別支援で対応しています。

相談事業

1. キャリア相談
2. 心の健康サポート(心理面接)
3. スタッフ面談(総合相談)
4. 訪問相談

イベントプログラム事業

1. ソーシャルスキルトレーニング
2. 就活講座・対人講座
3. 若者の居場所
4. 職場めぐり
5. 自然体験プログラム



とちぎ若者サポートステーション

所在地：〒321-0964 栃木県宇都宮市駅前通り 1-3-1 フミックス STM ビル 3F
(平成 24 年 4 月より、1F に移転します)

お問い合わせ：TEL:028-623-3223 FAX:028-623-3236

開所時間：火～金 10:00～19:00 / 土日 10:00～17:00

<HP> <http://www.tochigi-npo.net/saposute/>



対象者：

就学者、求職活動中の若者、無業者、ひきこもり、発達障害、知的障害、精神障害、保護者

対象年齢：

15 歳から 40 代

とちぎユースワークカレッジとは？

とちぎユースワークカレッジの日常をお伝えします



「着きました」

例年にない寒さの 1 月下旬、朝のカレッジ事務所に次々と電話が入ります。「T です。着きましたので、えーと、これから、インターンに行ってきます。」「K です。着きました。これから頑張ってきます。」

明るく晴れ渡った空の下、まだ氷点下の冷たい空気を切りながら自転車でインターン先まで向かう学生、路面の端に雪の残る田舎道を 20 キロ近く走りたどり着き連絡をくれる学生。自信がなく、少しづつむき加減で、話しかけても小さく「はい」と答えるだけの彼らは、1 月スタートからインターンに行く準備をしてきました。

カレッジに入学して 3 ヶ月。少しずつ声を出す授業や、ビジネスマナー、働く心得なども学んできました。その間に仲間との距離も少しずつ縮めてきました。

そうして、迎えた 1 月 30 日からのインターン。それぞれの個性を受け止めてくれる 9 か所のインターン先に向かいます。一人はカメラショップに、一人は団体の事務所に、一人が学童保育に、それぞれがそれぞれの場所で 2 週間を職業体験させてもらいながら過ごします。

この 2 週間「遅刻しないか・・・」「お腹いたいって休まないか・・・」スタッフは祈るような気持ちで朝の電話を待っています。「着きました。」「そう、寒かったね。今日も一日がんばってね。」「はい。終わったらまた電話します。」そんな何気ない会話に今までの自分の殻を破ろうとしている彼らの思いを感じ、「カレッジにできることは何か」改めて自分たちに問う機会にもなります。

「着きました。」インターンの 2 週間は、彼らの新たな一面を知り、彼らの可能性に感動し、支えているようで、大切なものをスタッフがもらっていると感じる時でもあります。



これからの予定

とちぎユースワークカレッジの行事

- ◆ 2012年2月16日(木) 保護者会
- ◆ 2012年3月12日(月)～13日(火) 卒業旅行
テーマは「チャレンジ」です。報告をお楽しみに。
- ◆ 2012年3月16日(金) 第5期修了式
とちぎボランティアセンター「ぼ・ぼ・ら」3F 研修室A
- ◆ 2012年4月19日(木) 第6期入学式
また、新たな出会いが始まります。
定期的で開催している説明会については、同封の資料をご覧ください。



第4期卒業旅行

鞍掛山登山(2011年9月16日～17日)

とちぎユースワークカレッジを応援する会 会員募集

会員募集

とちぎユースワークカレッジでは、趣旨にご賛同いただき、会員として若者を支えていただける方を募集しています。

長期的に無業状態の若者が社会への再チャレンジをするためには、訓練の時間が必要です。普段生活をしている私たちには考えられないことですが、「働きたくても働くことができない」状況はとても辛いものです。

その原因の多くは、人との関わりに困難を抱えていたり、社会そのものに不安を抱えていたりしています。

私たちは、提供するプログラムを通して、人との関わり方と職業観を育むことで、自立を促しています。未来ある若者を育て、社会に繋げるためにぜひご協力ください。

会費

個人会員：10,000円 / 年 賛助会員：5,000円 / 年
法人会員：10,000円 / 年

会員特典

- ★2か月に一度発行するニュースレターをお届けします。
- ★イベント案内や講座割引などをおこないます。
- ★法人会員様においては、ホームページの専用スペースに広告を掲載します。

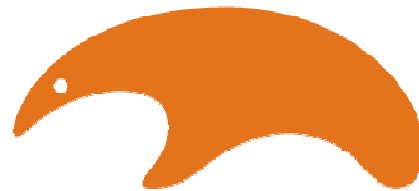
編集後記

とちぎユースワークカレッジの広報誌「ニュースレター」も2010年5月から発行をはじめ、今回で11号を迎えました。第10号までは、4ページ構成で情報をお伝えしていましたが、より多くの情報をみなさまにお伝えしていくために、8ページへと増やしました。

若者を支援する事業は、まだまだ社会的には理解されないことがあります。支援を必要とする若者の問題は様々です。問題を抱えた若者は、自分自身の責任とされがちですが、そこに至るまでに様々な経緯があります。そこに至るまで関わった、家族や学校、地域、社会の問題でもあります。

そのため、従来の活動報告だけでなく、とちぎユースワークカレッジでの取り組みや社会における若者の問題をはじめ、同じ支援をしている団体などのご紹介もおこなっていきます。みなさまに将来を担う若者が、社会に踏み出すきっかけづくりに理解、そしてご支援ご協力をお願いいたします。

次号では、半年間の学生の変化など第5期生最後の活動報告をお伝えしていきます。



とちぎユースワークカレッジ ニュースレター 第11号 2012年2月6日

栃木県委託・若年無業者支援事業
とちぎユースワークカレッジ

栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル4F (東武宇都宮駅より徒歩5分)

TEL・FAX：028-638-5502 営業時間：9:00～17:00(土日祝日除く)

<http://www.youthworkcollege.jp/>

カラー版・過去発行分はホームページでご覧になれます [担当:羽生]

実施団体 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

